

日本大学芸術学部



校友会報

平成26年5月発行
2014年春季号

92

C O N T E N T S

| | | | |
|----------------|----|------------|---------|
| 平成 26 年度総会のご案内 | 2 | 秋田江古田会総会 | 11 |
| 第 8 回日藝賞決定 | 3 | 台湾江古田会総会 | 11 |
| 皆さん今日は! | 5 | 中国江古田会 | 12 |
| 新年顔合せ幹事会 | 9 | 江古田会各支部連絡表 | 12 |
| 新潟江古田会総会 | 10 | 学部ニュース | 13 |
| 長野江古田会総会 | 10 | 学科ニュース | 13 ~ 19 |
| 岩手江古田会総会 | 10 | 編集後記 | 19 |

INFORMATION

当日は役員改選がありますので
ご出席のはがきを
是非お出してください。

卒業生のみなさん
平成26年度
総会のご案内

2014

6.28 [土] pm5:00 です!



会費 喜寿を越えられた卒業生……ご招待
それ以外の卒業生……3,000円

議題 1. 会務報告 2. 会計報告 3. 予算審議
4. 推薦校友 5. 役員選出 6. その他

総会終了後、ただちに懇親会に移ります

場所: 日本大学芸術学部内

TEL. 03-3554-5363

※当日、正門にてご案内致します。

第 8 回日藝賞決定

毎年活躍した校友二名を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第8回受賞者が決定し、4月4日の入学歓迎式において授賞式が行われました。



坂田 栄一郎氏



松崎 しげる氏



学部長と3人で

第8回「日藝賞」受賞者について



坂田 栄一郎 [Sakata Eiichiro]

1941年、東京都に生まれる。日本大学芸術学部写真学科出身。広告制作会社ライトパブリシティに勤務の後、1966年に渡米。ニューヨークで写真家リチャード・アヴェドンに師事する。1970年に初個展「Just Wait」（銀座ニコンサロン）を開く。1993年には写真界の大型国際イベントとして知られる「アルル国際写真フェスティバル」（フランス）に招待され、写真展を開催、同時にワークショップを行う。またアルル名誉市民賞を受賞。週刊誌「AERA」（朝日新聞出版）の表紙を飾る人物写真を1988年の創刊号から現在まで撮り続ける。2004年、東京都写真美術館で個展「PIERCING THE SKY—天を射る」を開催。2005年に第24回土門拳賞ならびに日本写真協会作家賞を受賞。2013年に原美術館で個展「江ノ島」を開催。

主な写真集

「注文のおおい写真館」 流行通信社 1985年
 「Talking Faces」 六耀社 1990年
 「amaranth」 朝日新聞社 1995年
 「PIERCING THE SKY—天を射る」 求龍堂 2004年
 「JUST WAIT」 求龍堂 2006年
 「LOVE CALL—時代の肖像—」 朝日新聞出版 2008年

主な個展

Just Wait 銀座ニコンサロン 東京 1970年
 Sakata 70 Just Wait2 TDSギャラリー 東京 1980年
 注文のおおい写真館 渋谷西武百貨店 東京 1985年
 東洋の顔 東高現代美術館 東京 1989年
 Memosyne TDSギャラリー 東京 1992年
 ポートレイト アルル国際写真フェスティバル フランス 1993年
 amaranth 新宿パークタワーギャラリー1 東京 1995年
 PIERCING THE SKY—天を射る 東京都写真美術館 2004年
 イサムノグチギャラリー／ガラスのピラミッド・モエレ沼公園 北海道 2005年
 第24回土門拳賞受賞作品展 土門拳記念館 山形 2005年
 JUST WAIT P.G.I.ギャラリー 東京 2006年
 LOVE CALL—時代の肖像—
 丸ビル／新丸ビル／行幸地下ギャラリー／丸の内オアゾ 東京 2008年

受賞歴

フランス アルル名誉市民賞受賞 1993年
 平成17年度 日本写真協会作家賞受賞 2005年
 第24回 土門拳賞受賞 2005年「PIERCING THE SKY—天を射る」 2005年



松崎 しげる [Shigeru Matsuzaki]

1949年、東京都に生まれる。日本大学芸術学部文芸学科出身。1970年にシングル「8760回アイ・ラブ・ユー」でソロ歌手としてデビュー。数多くの商業ソングのCMソングだった「黄色い麦わら帽子」が大ヒット。1976年にスペインで開催されたマジョルカ音楽祭に「愛の微笑」で出場、第2位入賞と最優秀歌唱賞を受賞。1977年「愛のメモリー」をリリース、爆発的大ヒットとなる。同年の日本レコード大賞歌唱賞他、数々の賞に輝き、第28回NHK紅白歌合戦にも初出場。「噂の刑事トミーとマツ」「お金がない!」等、俳優としてTVドラマでも活躍。

主なレコード

8760回アイ・ラブ・ユー 1970年
 黄色い麦わら帽子 グリコアーモンドチョコレートCMソング 1972年
 愛のメモリー グリコアーモンドチョコレートCMソング 1977年
 火の鳥 東宝映画「火の鳥」主題歌 1978年
 ワンダフル・モーメント TBS「噂の刑事トミーとマツ」主題歌 1979年
 夏の恋人 アサヒビルCMソング 1990年
 グッド・バイ・マイ・ラブ メディア コスメティックルネッサンスCMソング 1993年
 あの輝きを忘れない NTV「ナンナ世界征服宣言エンディングテーマソング」 1994年
 MY FAVORITE SONGS
 プラハにてチェコ・フィルハーモニー管弦楽団と録音 2005年
 愛のメモリー 35th Anniversary Edition 2012年

TVドラマ

噂の刑事トミーとマツ TBS 1979年
 銀河TV小説 明日はどっちだ NHK 1983年
 お金がない! CX 1994年
 所轄刑事6 CX 2011年

現在レギュラー番組

完成!ドリームハウス(ナレーション) TX 2009年～
 ゆうとぎネットワーク 「松崎しげるの写真散歩トリタビ」 NHK 2010年～

受賞歴

スペイン マジョルカ音楽祭 「愛の微笑」第2位入賞 1976年
 日本レコード大賞 「愛のメモリー」歌唱賞受賞 1977年
 日本歌謡大賞 「愛のメモリー」放送音楽賞受賞 1977年
 第7回東京音楽祭ゴールドカントリー賞 「銀河特急」最優秀歌唱賞受賞 1978年
 第9回東京音楽祭世界大会 「ワンダフル・モーメント」銀賞受賞 1980年

その他

サッカーブラジルワールドツアー ブラジル代表×日本代表戦 国歌斉唱 1977年
 長野オリンピック 女子フィギュアスケート 国歌斉唱 1998年
 日産スタジアム ももいろクローバーZライブ ゲスト出演 2013年
 バリーグ 西武ライオンズ×オリックスバファローズ
 国歌斉唱 ライオンズ球団国歌歌唱 2013年
 リーグ ナビスコ杯 柏レイソル×浦和レッズ 国歌斉唱 2013年

皆さん今日は!

本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

●長谷川 怜実(写真学科卒)

初めはただ、上京したくて入学した日芸ですが、4年経った今、ここで写真を学ぶことができていると本当によかったです。それは技術的なこと以上に、作家や作品に対する尊敬の姿勢を持つことができるようになったからです。また、写真を撮ることで出会えた多くの人たちがいました。彼らとの出会いは、私にとって貴重な経験となり、人とコミュニケーションをとることの楽しさや大切さを実感するきっかけとなりました。全部、写真のおかげです。とは言うものの、小学生の頃は写真やカメラが大嫌いで「この世からなくなってしまう〜」と心の底から思っていました。そんな私が、ひょんなことから写真を撮るようになり、大学卒業後も写真を仕事としていくことを心に決めたと、当時の私が知ったら嘸かし驚くことでしょう。もちろん将来は不安ですが、写真を通して、もっと多くの人たちに出会える、挑戦の場が増えると考えるのは楽しみで仕方ありません。私は、大学を卒業しても写真を撮り続けていきます。これからも写真が私に多くのことをもたらしてくれると信じて。



●布川 大和(写真学科卒)

4年前、私には機材も写真の知識や技術もなく、文字通り期待と不安だけを持って日芸に入学しました。当然ながら周りには写



真の経験者が沢山いて、大学から写真始めた私にとって入学したての頃はずっと劣等感を抱いていました。しかし、授業などを通して少しずつ写真について学んだり、友達と意見を交換したり、自分のカメラで様々なものを撮るうちに、次第に自分にも写真に対する向上心が芽生えてきました。気付けば所有する機材も増え、カメラマンのアルバイトも始め、就職も写真関係の仕事に就くことができたりと、入学当初からは想像もつかないほど自分の生活の中で写真が大きな比重を占めるようになりました。

自分がここまで変わることができたのは、友人や先生方を始めとする学校の方々、仕事などで出会った方々などこの4年間で出会った沢山の人たち、そして心配しながらも見守ってくれていた家族のおかげだと思っています。大学生活の中には辛いことや泣きたくなるようなことも数え切れないほどありましたが、本当に沢山の人の支えがあって乗り越えることができました。これから先も人との出会いを大切に、厳しい社会を乗り越えていこうと思います。

●橘谷 友紀(映画学科卒)

卒業をむかえ、改めて大学生活を振り返ると「私はこの4年間で成長できたのだろうか?」と、考えることがある。堂々と胸を張って、私は成長できた!というほど何かを成し遂げたわけではないからだ。しかし、成長といえるかは分らないけれど私は少し自分が変



わったと思う。入学当初、私はもっと内向的だった。真剣に自分の内面について語るのが苦手だった。人の内側に踏みいるのをためらう人だった。でも、今は少し違う。脚本を書いたら自分なんて簡単にさらけ出されてしまう。けど、人に読んで貰わないと意味がない。こういうものが撮りたいんです、って言葉にしなくちゃ伝わらないし、色々な人とつながっていかないと映画はつくれない。映画作りを通して、私は少しずつ変わったんじゃないかと思う。そして、少しでも変わることが出来て、良かったとも思う。もちろん周囲の人たちの影響も多大にある。私にはない感性・個性を持っている友達が羨ましくて少し嫉妬もした。それでも、個性豊かな仲間たちと一緒に映画を作っていくのは、喧嘩したり上手くいかなくて苦しかったりするけど、そういうことを乗り越えられるくらい楽しくて、充実してて、幸せなことだった。まだまだやりたいことも沢山残った大学生活だったけれど、ついに卒業。私が変わるチャンスを与えてくれた、家族、先生方、友人たち、すべての人に感謝を。少し変わった自分と共に改めて歩もうと思います。本当にありがとう。

●野崎 真代(映画学科卒)

私は映画が好きだから映画学科に入学したわけではありません。高校時代に映画部に所属していて、お遊びみたいなノリで映画を撮ってコンクールで賞も貰って、楽しいからそういう大学入



ろうかなあと、そんな勢いだった気がします。

入学してからは後悔しました。映画をよく知りもしなかったので授業の内容とかサッパリなんです。しかも映画が特別好きというわけではなかったので授業内容に興味がない。やらかした、と思いました。

それでも卒業までやってこられたのは、先生方のおかげだと思います。私は昔からアニメにとっても興味があったのです。先生方の中にはアニメの脚本を書かれる方もいて、アニメ業界のことを知ることが出来、アニメをつくる側に行きたいという気持ちを生むことが出来ました。そして無事に、夢のアニメ制作会社へ就職先を決めることが出来ました。

初めは、この大学に入ったことは間違っていたかもしれないと何度も思いました。でも今となっては正解だったのだと胸を張って言えます。私はここで様々な世界を知り、その中で夢も培うことが出来ました。とてもいい先生や友人に恵まれたと思っています。本当にありがとうございました！

●今村 克(美術学科卒)

選択をする毎日を過ごしてきた。大学に入り込んだ当時、あらゆる可能性を捨てず見えるものには手を伸ばし、それらをすべて実行しようとしていた。しかし、この空間で過ごすほどに可能性は増えていく。いつしか、すべてを実行することの不可能さに気が付き始めた。そうすると様々な対処法が生まれ出てくる。

例えば着地点を近くに設定し、小さく連続で目標を達成する。例えば事

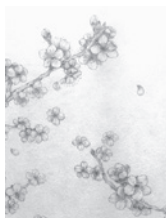


象の共通する要素を問題とし、その解決を持って複数の可能性を同時に実行したとみなす。そして、例えば保留する。

様々な可能性がある中であくまでもそれを捨てはせず、何か一つを選び取ることで生まれる「選ばれなかった選択肢」を、保留という選択として先延ばしにする。そうやってあくまで捨てないと腹を決めると全然関係ない選択をした時に、それまで保留されていた可能性が思いがけない形で目の前に出てくることがある。いまでは新しい選択と保留された選択が混ぜこぜになってもっと大きな枠の中で自在に選ばれている気がする。そういう状態はとても心が躍る。可能性を広げ、その対処をまなぶ。そういう意味で大学に来たことに価値はあった。

●高野 由茉(美術学科卒)

香川県の豊島から皆さん今日は。東京を離れ島での新しい暮らしがはじまった。なんとなく好き



だった絵画と学問として向き合ってみたくて大学へ進学したが、いつからか「なんとなく好き」では描けなくなってしまった。堅苦しいことをあれこれ考えるようにもなったし、自分がいかに描けないかを突きつけられるばかり。もともと油絵画ならではの勢いや重みが好きははずなのだが、現在の私はそれとは異なる方向性でちまちまと花を描いている。違うのだ、私の描きたい絵はもっとこう…。先が見えているのに手は届かない。少しずつ、一步一步前に進んでいくしかない。思うがままに、焦らずに美術とともに歩む人生を探していきたい。

日芸での四年間があったから絵をもっと好きになれた。常に葛藤は絶えないし、苦行と思いながら絵を描いていることもしばしば。けれども価値のある時間と経験であったと信じている。お世話になった方々、大学で学ぶ機会をくれた両親に感謝を。さて、せっかくこのような機会をいただいたので、華麗なる言い逃げという手段をつかって美術学科の心の声を最後に言わせていただこう。「絵画、版画、彫刻よ、ちゃんと仲良くしてください。」

●有松 栞(音楽学科卒)

日芸で過ごした4年間、自分らしさを大切に頑張ってきました。たくさんの刺激を受けながら、この大学生活で大きく



成長出来たと私自身実感しています。日芸は専門的な音楽の勉強が出来る上に一般科目、更には芸術総合講座も受講出来るので、幅広く学びたいと思っていた私にとって最高の環境でした。日芸で初めて知ったこと、学んだことは今後も大いに役立つことと思います。また、素晴らしい先生方に恵まれ、粘り強く丁寧に、時には厳しく指導して下さいました。そんな先生方の指導のもと、教職の授業も真剣に取り組み、専攻のフルート以外にもピアノ、声楽、オルガン、尺八を専攻し、幅広く音楽の勉強をしました。春からは自衛隊の音楽隊に入ります。中学の頃から始めたフルートが、まさか仕事として続けられるとは思ってなかったので大変嬉しく思います。入学当初は人前だと緊張しすぎていつも通りに演奏出来なかったのですが、経験を積むことで自信を持って演奏出来るよう

になってきました。これからは日芸で学んできたことをフルに活かして、音楽隊の一員として努力し続けたいと思います。

●萩原 有香(音楽学科卒)

「音楽療法を勉強したい。」私が日芸を選んだ理由です。ただ音楽療法を学ぶのではなく、様々な事を吸収したいという思いで、音楽療法コースが無い日芸を選びました。



私は、音楽教育と音楽療法を学んできました。似ている点、異なる点がありますが、学んだ事を相互に活かすことで知識が増え、考え方も変わり、視野が広がりました。

4年間を思い返すととても忙しかったが、とても充実しており楽しい日々でした。江古田校舎は、音楽療法を学ぶ上で恵まれた環境です。マジックミラーごしに見学ができるセッションルームがあり毎週実際に音楽療法が行われていました。他にも、珍しい楽器が多くあったり、施設で音楽療法をさせていただいたりしました。このような環境で貴重な体験をしたことが、卒業後に障害児支援を志すきっかけとなりました。

日芸で、励まし合い、刺激し合えある友人ができました。この出会いを大切にしたいです。また、様々な事を教えて下さった先生方や支えてくれた家族への感謝を忘れずに、社会人として胸をはれる様に成長していきたいです。

●中原 美穂子(文芸学科卒)

悪ふざけばかりしていた四年間だった。思い返せば「なんであんなことしたんだろう」と笑ってしまうことばかり。一つ一つ記憶を取り出してみても、本当に楽しい日々だったのだと痛感する。この日々がもう終わってしまうなんて信じられない。



今まで教室のはじっこでうじうじと過ごしていたわたしにとって、日芸はやっと自由に動き回れる場所だった。小説を書きながら雑誌を作り展示をやる。文芸に関することはなんでもやった。「やりたい」と声をあげればなんでも実現する、まさに「夢が叶う場所」。だけど、それは周りの助けがあったからこそできたこと。

何よりも人に助けられた四年間だった。あれやりたいこれやりたいとぎゃあぎゃあ喚くわたしに付き合ってくれた友人たちや先生方には感謝してもしきれない。一人一人に手紙を書いて握手をしながら涙ながらに「ありがとう」と言いたい気持ちはあるのだけれど、これからもお世話になろうと目論んでいる。だからさよならありがとうなんてセリフは言わないでおく(寂しいからではない)。今は、こう言うしておく。「またね」

●入倉 直幹(文芸学科卒)

またね、と晴れやかな顔で言ってみたくものです。私はすぐに泣いてしまうので、笑顔でお別れをしたことがありませんし、日芸での四年間を思い返しているだけで目頭が熱くなっているようで



は、どうやら今回も叶いそうもありません。

文章を書くことが好きで、表現や感性を磨くために日芸を選んだ私にとって、大学生活は実に刺激的であり、同時に自分の未熟さを噛みしめる日々でした。高校では本を読んでいる方だと自負していましたが、大学ではまるで歯が立ちませんでした。先生や友人の会話に挙がる作家、作品が分からずに書店に走ったのも一度や二度ではありません。そして知り合いが賞を獲るたび悔しい気持ちに苛まれ、愉快的イベントや活動を始めるたびに羨ましい気持ちでいっぱいになりました。それらに触れるたび、負けるもんかと自分なりに挑戦を続けた四年間でした。

その結果、気が置けない仲間にも恵まれ、素敵な思い出をたくさん作ることができました。苦い経験もしましたが、日芸の文芸学科に入学してよかったと心の底から思います。このまま思い出に浸り続けたいものですが、もうそろそろ涙は拭わなければなりません。とても、とても、幸せな時間でした。

●浅田 李子(演劇学科卒)

「みなさんこんにちは。岩手県立盛岡第二高等学校視聴覚委員会です。」朗読、詩作、歌、ものまね、釣り…そして、現代舞踊。



私には好きなことが沢山あります。特に県の大会で優勝した朗読、全国大会で文部科学大臣賞という最高の功績を残した詩は、私にとって命のような存在です。あれは進路選択の時期が迫った時の事でした。やりたいことは沢山あるのに、やりたい仕事が見つからない。自分がやりた

いと思うことを、仕事とうまく結び付ける事が出来ない…。終には「何でもできる＝何もできない」と絶望的な言葉を投げ掛けられ、塞ぎ込んだ日もありました。しかし私は誓ったのです。「自己の経済的自立は勿論、精神的自立の為に社会人になる。それが、最高の親孝行でもあるのだ。」と。たとえ答えがみえなくても、走り続けました。どん底の堂々巡りが何日間続こうとも、そこから這い上がろうという意志を捨てませんでした。そしてついに、私は「就職」という、新たな人生への挑戦状を掴み取ったのです。自分が本気で「やりたい」と思ったことは、死ぬ気でやらないと後悔します。夢は逃げません。貴方が逃げない限り。

●三品 優里子(演劇学科卒)

目覚めて一番に目にする朝日、毎朝飲む味噌汁、空を流れる雲、雨上りの虹、目に焼き付くような夕暮れ、夜空を飾る数々の星、流れる雲から見え隠れる月。様々なことに感動したい。常に感動していられたらどんなに素晴らしい人生か。常に感動できる人は素敵だと思う。それは「演技に、役に、何をもち込めるか。人生の経験を使い、自分を自由に使いどう表現できるか。」につながると思う。この四年間を振り返り、大きく分けて三つの課題が見つかった。「欲張ること」・「そこまでやるか」の精神・「自分の納得ではなく、観ている側の納得」の三つである。他にも課題は山積みだが、この三つは今後も必ず念頭に置いておきたいことである。最後に、四年間を振り返り、浮かんでくるのは、なんととっても四年間共に過ごしてきた仲間と



の出会い。私の人生においての宝だ。仲間や家族の支えがあったからこそ素晴らしい大学生活を送ることができたと思う。すべての出会いに心から感謝。感謝の気持ちを忘れずに、今後の人生で出会う人々、作品、役、すべてのものと、がむしゃらに向き合い、全力で欲張り、突き進んでいきたい。

●小倉 寛太(放送学科卒)

かっよくなくて運動も出来ない幼き小倉寛太はおもしろさを身に付けるしかなかった。かと言って危ない橋を渡る度胸などなく、「やることはきっちりやっておもしろい」と担任から謎の川柳で性格を言い当てられた僕は、テレビの裏側に憧れ、放送学科のある日芸に、はるばる滋賀から進学した。日芸はそんな僕にとって適温だった。サークルに勤しんでいたわけではない。自主制作に時間を使うこともほとんどなかった。ただただ授業での自分に満足しているのだ。特にテレビ制作や脚本などの実習では個性やこだわりを気持ち良く発揮できたし、他人とのおもしろさの違いを発見することもできた。学費もつけない精神とインスピレーションへの期待から履修科目にはきっちり出席していたが、発信だけでなく学びの快感もこの4年間で覚えた。ただやるべき範囲においてきっちりやっているだけで、こんなにも充実した気分であられる。おもしろさを求めて励ましたりぶつかったりした仲間や、テレビを学問することのおもしろさを教えてくださった先生方には心から感謝している。琵琶湖の鮎は外に出て大きくな



るらしい。日芸で大きくなったことは僕の誇りだ。

●高本 慧(放送学科卒)

私はこの学校で本当に多くの技術や知識を学ぶことが出来ましたが、卒業する今、一番自分が「日本大学芸術学部で学生時代を過ごせて良かった」と思えるのは、この学校が「生徒の個性を潰さない指導」であったからです。自分の作る番組はまだまだ稚拙でお粗末な所が多々あると思います。しかし、「熱意」や「企画のアイデア」という所では絶対負けたくない、そう思って4年間番組作りに励んで来ました。そこをちゃんと見ていて下さる先生方に出会えて私は本当に良かったと思っています。「このインサートはこう撮るのが常識なんだ」とか「CMはこういうタイミングで入れるんだ」などの具体的な内容について指導されることはほとんど無く、最初は「教えて貰ってないし、分かんないよ」と正直思っていました。今では指示されるのではなく自分で気付いて理解したからこそ、モノ作りを面白いと感じるようになったのだなと感謝しております。そしてそれこそが「個性を潰さない」この学校の私が一番好きなどころです。卒業後もここで学んだ熱意を持って、もっとテレビを面白く出来るよう尽力したいと思います。4年間ご指導頂き心よりありがとうございました。



●兼村 祐気(デザイン学科卒)

私は、デザイン学科に入って本当に良かったと思います。入学する前は全くデザインを知らない自分が上手くやっていたか不安でしたが、入学直後にクルマやオートバイのデザインが好きな先輩の誘いや影響もあって、さまざまな選択肢があるはずのデザイン学科であるにもかかわらず、もう既に、車輛メーカーに入りたいという夢ができていました。また、先輩達がオートバイに乗っており、その影響ですぐに免許を取ってオートバイを購入しました。もともと自分自身オートバイに興味があったのですが、先輩の一押しで踏み切れました。その甲斐あって、学内でオートバイを持つ仲間ができた、先輩や後輩ともツーリングにでかけたりもできました。



また、先輩達と、好きなクルマやオートバイのデザインについて話をしたり、一緒にスケッチを描いて互いに見せ合ったりなどして知識を付けスキルアップもできました。そして、おかげさまで自分の行きたい道に進めることもできました。4年間の大学生活で先輩や後輩達との出会いが自分の中で一番の財産になりました。これも日芸に入れたからです。本当にありがとうございました。

●諏訪 まり沙(デザイン学科卒)

私は大変面倒くさがり屋です。服を買いに出かけて選ぶのが面倒だからおしゃれになれないし、使ったものを元の位置に戻すのも苦手なので、かばんの中身はいつも物であふれかえています。しかし、日芸の4年間で勉強して



きたデザインというものはこの“面倒くさい”の固まりでした。デザインとは、グラフィックをデザインすることに限りませんが、例えば文字の大きさや写真のトリミング作業ひとつにしても何度も何度も実験しなくてはなりません。

「大切なことというのは、たいてい面倒くさい。」宮崎駿氏がテレビで語っていました。彼は、「ああ、めんどくさいなー」と何度も言いながら細かい絵を描いていました。偉大な人は“面倒くさい”という感情を持たずに物事をこなしているのだと思っていたので少し安心しました。面倒くさいと思うのは、それだけ自分がその作業にこだわりを持っていて、中途半端にはできないと思っている証拠です。デザインをすることに限らず、生きていく中で出会う“面倒くさい”ことに対して、マイナスの感情ではなく真心をこめて丁寧に取り組んでいきたいと思います。

新年顔合せ幹事会

1月11日(土)
於：池袋メトロポリタンホテル

平成26年1月11日(土)池袋メトロポリタンホテルにて新年顔合わせ幹事会が開催された。4時より4階松風において江古田会支部総会を行い海外は台湾江古田会をはじめ国内は12支部が出席され約2時間にわたり各支部の現状報告など忌憚のない意見交換をした。6時よりは3階の富士において新年会となった。学部長をはじめ各支部会長・常任幹事・幹事約50名の参加のもと、堀裕子さん(演劇58卒)コンテンポラリーダンス畠山奈保美さん(演劇60卒)のシャンソンで会場は盛り上がりまた例年のビンゴゲームも童心にかえり皆さん大変楽しまれ会を終了した。



新潟江古田会総会

10月12日(土) 於: ANA クラウンプラザホテル新潟

平成25年度新潟江古田会総会は、10月12日野田学部長、綾部校友会会長をお招きして新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。

8名の参加者は少し寂しい結果でしたが和気あいあいのうちに終了しました。

来年は10名以上の参加を目指して頑張りたいと思っています。

余談ですが、平成26年2月の藝術学部卒業制作展に個人的に行って参りました。

すっかりモダンになった江古田校舎に感激しました。

平成26年度の総会の時にはその時の様子を報告したいと思います。

新潟江古田会
会長 増井 伸一



長野江古田会総会

10月20日(日) 於: 長野市生涯学習センター

毎年秋に開催している長野江古田会総会。今年度は10月20日に長野市生涯学習センターにて開催しました。毎年ご参加いただいている方だけでなく、久しぶりに顔を出してくださる方、初めて顔を出して下さった方と、顔ぶれ豊かに開催できたことは大変大きな収穫となりました。

新会長に交代となったこともあり、ひと通りの自己紹介の後、今年度および来年度の活動予定を検討いたしました。その中で、長野江古田会では会員同士の交流を盛んにすることを一つの目標に決めました。せっかく幅広い世代の方と知り合いになれる機会があるのだから、それを活用しない手はないだろうという意見が多かった

ためです。そのために、若手の会員を中心にフェイスブックでの情報発信や情報収集をスタートさせていますので、長野江古田会会員の皆様は「いいね!」をお願いします(<http://www.facebook.com/naganoekodakai>)。また、来年度には地元の高校と連携し、演劇講座(ワークショップ)などを行いたい考えです。ついては、会員の皆様方にご協力を頂きたく、今後継続的に会員の皆様とは連絡を取らせていただくつもりです。

さて、総会に参加できなかった皆様、ご存知のとおり長野は南北に広い県です。北部と南部では文化も方言も違います。しかし、同じ母校を持つ世代の違う者達が各地から集ま

り、思い出話で盛り上がったり、いろんな企画を考える事ができるって本当に素晴らしいと、改めて考えることの出来た一夜でした。ぜひ、次回をご参加ください!

最後に、お越しいただきました会員の皆様、野田学部長、綾部校友会会長、ありがとうございます。

事務局長
松沢 彩(放送平成16年度卒)



岩手江古田会総会

10月26日(土) 於: 盛岡直利庵

10月26日、盛岡市内・老舗蕎麦屋の直利庵2階座敷にて第9回岩手江古田会が野田学部長先生、綾部校友会会長、そして岩手オール日大校友会・元持勝利会会長御臨席の下で開催されました。当日は岩手の会員に加え、宮城江古田会から塚崎隆夫会長、会員の柳橋邦彦、射手矢静一両氏の3名も駆けつけて下さいました。

蕎麦屋と書きましたが実は料理の美味しさではとても有名なお店で、宴会の予約を取り付けるのが凄く難しいところです。当日は万難を排し、その名も「松茸尽くし」という腰を抜かささんばかりの豪勢な料理を皆さん笑顔で堪能されました。豪華な料理に加え、鈴木玲子会員は長唄・三味線のお師匠さんですが、そのご縁で

盛岡芸妓二人も駆けつけて下さり



見事な踊りを披露して宴席に華を

添えて下さいました。二階での宴会のメは1階蕎麦屋さんのメニューから自分で好きなものを選べる粋な計らいです。不肖私は中座した会員が、あろうことか松茸天ぶらを手付かず

で残していたのを目敏く見つけ、掛け蕎麦に投入しました。すると得も言われぬ芳香が立ち込め、それはそれは、贅沢なメとなりました。来年は岩手江古田会も早いもので10周年と

なります。これから皆で話し合っ
て節目の年に相応しい楽しい会を作
り上げる予定であります。

佐藤 剛(演劇53年度卒)

秋田江古田会総会

秋田江古田会は、10月26日(土)に秋田市で平成25年度の総会を開きました。総会には、芸術学部次長・校友会副会長の原直久教授がご臨席くださいました。

今回の総会が10月末となったのは各県支部が増えたことによりお互いの総会開催日を調整したことにあります。

はじめに田宮会長が「現役の会員は忙しくてなかなか出席していただけない。また、急な用件や病気などで出席できないとの連絡もあり、残念です。

今後とも総会をはじめ交流会などへの積極的な参加を呼びかけていくようにしましょう。又、参加しやすい会としての事業などアイディアをご提示いただきたい。」と挨拶。

このあと、平成24年度の事業や決算などについての報告を承認。25年度の活動計画も承認しましたが、予算については事務局長の交通費(男鹿～秋田)は必要経費として計上すべきであるとの意見が出され了承されました。

引き続き行なわれた懇親会では、

10月26日(土) 於：イヤタカ

出席者が仕事や暮らして思ったことなどを披露するなど、和やかで楽しいひと時を過ごすことができました。

秋田江古田会
会長 田宮 忠



台湾江古田会総会

現在、台湾江古田会の登録者数は50名弱です。なお、新規メンバーは、一昨年博士号を取得したJUJUの復帰後は、あまり増えておりません。理由の一つは、卒業した後の日本での就職だと想います。今後の対策として、頻繁に在籍中の台湾留学生と連絡のやり取りをしたいと想っています。

最近、母校で学位を取得し台湾に戻ったメンバーの一部は、台湾の大学の教師になっています。その多くは台湾南部の台南市や高雄市の大学に勤務しているため、一昨年に続き、去年の9月に南部校友会を開催しました。台北からは3名が参加し、合計18名の出席となり、大変賑わいました。南部は気候のせいか、心も温かいようで、この感じからしますと、南部の校友会への出席者数は、普段台北

で開催する会員総会への出席者数を追いつきそうな勢いです。

2013年台湾江古田会の年度会員総会ですが、当初11月26日を予定していましたが、日本大学台湾校友会(オール日大)が台湾の社団組織化になった10周年を記念する大きな式典を計画し、日程が11月9日と、江古田会の予定日に近く、私を含めた芸術学部の卒業生数名のオール日大校友会役員は動員の要請依頼も受け、また、野田学部長がオール日大校友会にも出席するとの情報を得たため、台湾江古田会の年度会員総会を繰り上げ、日本大学台湾校友会と同時開催することにしました。

11月9日に開催した日本大学台湾校友会は、日本大学理事長、日本大学校友会会長田中英壽様、学長大塚吉兵衛先生を初め、芸術学部野田学

11月10日(日) 於：玉喜飯店

部長を含め4学部長のご出席のほか、沢山の学部校友会代表者など、合計31名のご光臨をおおぎました。式典中は「日本大学創立130周年記念事業」に100万円を寄付する贈呈式も行われました。

開催二日目は、台湾江古田会メンバーが原副会長、野田学部長を迎え、バスに同行して台北から離れた新竹地区への日帰り旅行をしました。台湾の客家民族開拓文化に触れ、充実した一日を過ごしました。

これからの2014年は、台湾江古田会もより元気に交流を深めて行きたいと思っています。皆様に置かれましては、引き続きご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。

台湾江古田会
会長 林 俊宏

中国江古田会

中国にも「江古田会」誕生！3月22日に上海で

校友会として海外では韓国、台湾に続いて3番目となる「中国江古田会」の設立総会が3月22日、上海市内で開かれました。野田慶人学部長と原直久校友会副会長にお越しいただき、北京や天津、蘇州からも日藝OBとOGが集まり、会員25人で「日本大学芸術学部校友会中国支部」の会則や役員案を了承しました。6月に日本で行われる予定の校友会総会でご承認いただければ、正式に発足することになります。

この「中国江古田会」は設立時に、日藝OBやOGで中国人14人、日本人11人が参加しています。残念ながら昨年、唯一の文芸学科OBだった方が上海から帰任されてしまいましたが、他の7学科は全て網羅する多彩な顔ぶれがそろい、日本と中国を「江



古田」というキーワードで、ホンネで結ぶ貴重な交流パイプになっています。今後は芸術学部はもちろん、母校の日本大学発展のため、中国から「8つのアート、1つのハート」を実践していきます。

校友会よりご寄贈いただいた「中国江古田会」旗を飾った設立記念パーティーの席では、野田学部長からすっかり新しくなったキャンパスのようすや、最近の日藝の学生たち

の活躍のようすをお話いただきました。苦学して江古田に留学した中国各地のOBやOGはとりわけ目を輝かせ、先生方や先輩、後輩を囲み、思いついた話に花を咲かせていました。

当日は「8つのアート、1つのハート」をイメージした中国江古田会オリジナルのクッキー記念品もメンバーのカンパで作成し、出席者全員に配りました。

河崎 真澄(放送56年度卒)



江古田会各支部連絡表

各江古田会支部に
ご在住の校友の皆さん

各支部では年1回の総会を開き親睦を高めて色々な活動をしております。今年度は石川県・岡山県も江古田会設立いたします。

参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

| 支部名 | 名 前 | 卒業学科年度 | 連絡先 |
|---------|--------|-----------|---------------|
| 北海道江古田会 | 氏家 曹一 | 放送 52 年度卒 | 090-3468-6657 |
| 青森江古田会 | 高木 保 | 演劇 32 年度卒 | 0177-77-7708 |
| 秋田江古田会 | 仙北屋 昭弘 | 音楽 54 年度卒 | 090-2954-2283 |
| 岩手江古田会 | 鈴木 玲子 | 演劇 42 年度卒 | 019-646-6745 |
| 宮城江古田会 | 塚崎 隆夫 | 写真 42 年度卒 | 090-5352-4355 |
| 山形江古田会 | 横倉 晋也 | 美術 52 年度卒 | 023-631-8040 |
| 新潟江古田会 | 増井 伸一 | 写真 48 年度卒 | 025-233-3910 |
| 福島江古田会 | 島崎 恒夫 | 映画 31 年度卒 | 024-935-5410 |
| 長野江古田会 | 宇田川 信行 | 映画 38 年度卒 | 026-251-8144 |
| 福岡江古田会 | 飛嶋 慶一 | 写真 44 年度卒 | 090-6953-5543 |
| 佐賀江古田会 | 音成 日佐男 | 放送 45 年度卒 | 0952-24-8181 |
| 熊本江古田会 | 奥村 隆志 | 写真 48 年度卒 | 090-7169-2909 |
| 宮崎江古田会 | 米倉 史朗 | 写真 52 年度卒 | 090-1080-8082 |

学部ニュース

去る3月25日に平成25年度卒業式が
挙行されました。日本大学総長賞・
優等賞・優秀賞、芸術学部長賞、芸術
学部奨励賞など卒業生、大学院修了
生に対する各賞の発表及び表彰があ
りました。

●日本大学学長賞(学業部門)

○文芸学科 林 万比

●日本大学優等賞(学業部門)

○写真学科 青山枝里香 角なすか
竹中真司 南あゆ子

○映画学科 中島久美子 河合真子
沈 鉉濬 澤 茂仁

○美術学科 高野由菜 堀内崇志
渡邊舜史 今村 克

○音楽学科 山口佳那子 純田未樹
志知由紀子 杉本綾希

○文芸学科 蔭久 結 泉山友郁
眞柄冬音

○演劇学科 肖 嬌 森本絢子
比留間晴子 和井瑞希

○放送学科 打越 武 萩原 輝
白戸裕也 清宮麻子

○デザイン学科 諏訪まり沙 島田紅美
金子桜子 青木祥子

●日本大学奨励賞(学術・文化部門)
外池えりか(デザイン2年)

●芸術学部長賞(学業部門)

○写真学科 竹野 洸 布川大和
高見之陽 山井美希

○映画学科 吉谷彩子 土屋瀬莉
名古屋純子 田中有沙

○美術学科 鈴木泰憲
○美術学科 仮屋真二 寺田 藍
奥井渉太 成沢 悠

○音楽学科 増田未玲 大澤未来
伊藤愛里 純田未樹

○音楽学科 渡辺定路
○文芸学科 大井瑞布 中野知沙子
内田胡桃 中西 翼
關澤飛鳥

○演劇学科 池 杏子 松本 捺美
林 杏 小野ひとみ

○放送学科 田中 君枝 宮下 郁
比企真璃子 近藤美星

○デザイン学科 石垣明子 諏訪まり沙
刘 灵 石原 匡

○デザイン学科 宋エルム

●その他の部門

○映画学科 伊東俊平

○文芸学科 熊井俊介

○デザイン学科 栗山瑞季

●芸術学部奨励賞

○写真学科 永井晴生

○映画学科 松本一斗

○美術学科 松山雄太

○音楽学科 田口絵理

○文芸学科 大滝華夏

○演劇学科 鹿山結加里

○放送学科 井上悠子

○デザイン学科 関里佳人

学科ニュース

写真ブロック



●平成25年度芸術祭展示作品の中
から写真学科奨励賞が重松駿(3年)
「Life」、陳程(3年)「PORTRAIT」、小
松拓也(2年)「福島のいま」に授与
されました。また写真学科卒業生の
会・新写真派協会から新写真派協会
賞が重松駿に授与されダブル受賞
となりました。

●10月25日に江古田校舎で野田尚之
氏により「タイムラプス(静止画を動
画素材として使用する撮影)の撮影、
編集等」のテーマで実習も含めた特
別講義が行われました。

●11月14日に江古田校舎で杉山宣嗣
氏(昭54年度卒)により「写真を撮る
だけではプロにはなれない」のテ
ーマで、セルフブランディング・プロ
モーションを写真家としてどう活動
するかについて電子写真集制作を通
して解説頂いた特別講義が行われま
した。

●1月10日に江古田校舎で浅田政志
氏により「写真集の作り方」のテ
ーマで写真集『浅田家』の編集過程に
ついて特別講座が行われました。

●卒業制作の中から金丸重嶺賞が
長谷川怜実「Catch the Light」、町田
有理「The Gift of the Magi」、山廣良
輔「流浪」に決まりました。
その他の賞については「学部ニュー
ス」のページをご覧ください。

●「2014卒展」が2月17日～3月1日に
日本大学芸術学部江古田校舎芸術
資料館で行われました。展示作品の

中から李準 鎬「THE BIHARI: FORGOTTEN PEOPLE IN BANGLADESH」、神戸 義雄「Drowning」、布川大和「¹/₈₁₅₂₂₇₂₀ min. —世界に開かれた窓の軌跡—」に写真学科奨励賞が、また高見之陽「How to go」に新写真派協会賞が授与されました。また本年度は、同写真展が3月8日～3月10日まで「日本大学芸術学部写真学科2014卒展」としてニコbis新宿で開催されました。

●「The Emerging Photography Artist/2014 新進気鋭のアート写真家展」(2月18日～3月2日、インスタイル・フォトグラフィー・センター)に大学院生の桑田恵理、3年生の重松駿が出品し、重松がグランプリを受賞しました。

●練馬区役所健康福祉事業本部の

依頼で、3年生有志13名が女性の健康というテーマにそって写真を制作しました。その作品が「女性の健康週間」写真展として3月1日～3月14日に練馬区役所本庁舎で展示され、ホームページでも紹介されました。

●「日本大学芸術学部写真学科卒業制作選抜展」が3月6日～3月12日にポर्टレートギャラリー(四谷)で行われました。この展覧会は今年で3回目となります。卒業制作の実物を校外で唯一展示するものです。展示希望者を公募し、審査をへて選抜し開催となりました。出品者は伊藤万結「華相」、小池雄之「池島・有と無・」、高見之陽「How to go」、永井晴生「Ize Of The World」、長谷川怜実「Catch the Light」、南あゆ子「そこにいたはずの」、山井美希「鉄路四七景」の7名です。

●平成25年度をもって高井潔先生(昭35年度卒)、井沢清先生が写真学科を定年されました。新しく小川重雄先生(昭54年度卒、「写真表現Ⅳ(建築写真)」担当)、萩原義弘先生(昭59年度卒、「写真表現Ⅱ(報道写真)」・「ゼミナール」担当)、打林俊先生(平18年度卒、「写真史Ⅰ」担当)、新ヶ江友也先生(平9年度美術学科卒、「写真表現研究Ⅰ(広告写真)」担当)、河野純一先生(「写真化学」担当)の5名の先生をお迎えしました。

●第8回日藝賞を受賞した坂田栄一郎氏(昭39年度卒)の受賞記念写真展を江古田校舎東棟1階の写真ギャラリーで3月27日より開催。詳細は写真学科ホームページをご覧ください。

映画ブロック



●平成25年度:映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第41回渡辺俊平記念賞
(脚本)波田彩花

☆第16回答見有弘賞
(理評)澤茂仁

☆第7回大竹徹賞
(脚本)佐藤帆乃香

☆第8回八木信忠賞
(録音)柳田耕佑

☆第38回映画学科奨励賞
(理評)杉田卓也、(映像)小林陸、(脚本)秋田美月、(監督)小根山悠里香、(撮影)卯木亜沙美、(録音)中島久美子、(演技)岡本玲

☆第23回映画学科選奨
(理評)根岸航希、(映像)白鳥蓉子、(脚本)西山実穂、(監督)大金康平、(撮影)持田彰子、(録音)伊東俊平、(演技)松川尚瑠輝

☆第21回映画学科特別賞(放映産業提供)
(理評)横田貴尚、(映像)木村舞子、(脚本)下山航平、(監督)末廣朋樹、(撮影)小澤真央、(録音)小川智生、(演技)松井薫平

☆第11回東芝ライテック・アートラ

イティング賞
(撮影)福尾直己

☆第13回映画学科コダック賞
(監督)ダニエル・トイヴォネン、橘谷友紀、(撮影)島健太郎、五十嵐一人、(録音)小原愛里沙、横川寛人、(演技)長島菜々子、中田くるみ

●平成26年度より次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。
藤原花講師(映画特講)、山本史朗講師(メディアアート)、志村三代子講師(映画特講)、暉俊創三講師(外国映画史)、上田学講師(映画特講)、谷潤子講師(音楽)、寒竹ゆり講師(平成17年度映画学科卒、映像表現・理論)

美術ブロック



●第49回昭和会展(1/31～2/11)

日動画廊本店 銀座
絵画専攻助手 設楽俊 優秀賞受賞
張麗寧 シード：造
形芸術専攻絵画分野
2009年修了

●大山智子・設楽俊 二人展(4/7 ～4/12)

11:00～19:00最終日17:00まで
みゆき画廊 銀座
大山智子：2011 造形芸術専攻 絵
画分野修了

●第51回太陽展(5/22～6/3)

日動画廊本店 銀座

出品者：福島唯史(准教授)
櫻井孝美(講師)
蛭子真理央(講師)
設楽俊(助手)

●淀井彩子・鞍掛純一展

5月10日(土)～18日(日)
ギャラリーブロッケン

●第65回十日町雪祭り

2月14日(金)～16日(日)
雪の芸術作品部門 十日町ライオン
ズ賞受賞
田麦集落の有志の皆さんとの協働による
雪像作りは今回で10回目となりました



●「星と森の美術館」

笹井祐子 個展
2014年6月13日(金)～27日(金)

●美術学科 助手展

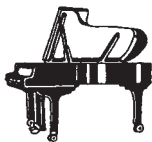
4月2日(水)～26日(土)
内山翔二郎・設楽俊・大橋朋美

●絵画コース絵画専攻美術学科非常
勤講師の櫻井孝美先生の「輝(緑と水
と太陽)」と言う作品が、読売新聞「額
絵シリーズ」として2014年7月に読売
新聞読者に配布されます。

●笹井祐子個展

会期：7月5日(土)～7月26日(土)
場所：ATELIER K ART SPACE
横浜市中区石川町1-6三基ビル
3F
TEL:045-651-9037

音楽ブロック



●平成25年度 卒業論文要旨発表会

平成26年3月20日(木)江古田校舎
E-301教室に於いて、卒業論文が優秀
であった学生による卒業論文要旨発
表会が開催されました。発表者は次
の通りでした。

<理論コース>伊藤愛里

<音楽教育コース>

田口絵理、杉本綾希、蓮絢子

<情報音楽コース>

吉川千晶、大澤未来、鈴木彩芽、
安藝麻衣子、吉田有佐

●平成25年度 卒業演奏会

平成26年3月20日(木)練馬文化セン
ター小ホールに於いて、卒業演奏及
び卒業作品で優秀であった学生の出
演する卒業演奏会が開催されました。
出演者は次の通りでした。

<声楽コース>

増田未玲(ソプラノ)、小林麻利子(メ
ゾ・ソプラノ)、高橋薫(ソプラノ)、
佐藤綾子(ソプラノ)

<ピアノコース>

純田未樹、石井緑、木村優花、竹花和
恵、高橋てる穂

<弦管打楽コース>

渡辺定路(サクソフォン)、鹿又寒
太郎(オーガエ)、末吉菜美(トラン
ペット)、明妻若奈(クラリネット)、
滴草幸実(フルート)

●銀座山野楽器主催 音大フェス ティバル2014

平成26年3月2日(日) 14:00開演 銀
座山野楽器本店
ピアノコンサート出演：平田亜樹

●日本ピアノ調律師協会主催 第 15回新人演奏会 イイノホール

平成26年4月27日(日) 17:00開演
ピアノ独奏：純田未樹

●第84回読売新聞社主催新人演奏 会 東京文化会館・大ホール

平成26年5月5日・6日
ピアノ独奏：純田未樹
サクソフォン独奏：渡辺定路、
ピアノ伴奏：石井緑
ソプラノ独唱：増田未玲、

ピアノ伴奏:木村優花

●ヤマハホール・コンサートシリーズ
「音楽大学フェスティバル・コンサート
トシリーズvol.5」

平成26年6月21日(土)・22日(日)

14:00開演

ピアノ独奏:平田亞樹

ファゴット独奏:井田千晶

トロンボーン独奏:室井笑利奈

●ヤマハ管楽器新人演奏会

平成26年5月27日(火)第32回クラリ

ネット部門 ヤマハホール

クラリネット独奏:明妻若奈

平成26年5月28日(水)第18回木管楽
器部門 ヤマハホール

オーボエ独奏:鹿又寒太郎

平成26年6月29日(金)第30回金管楽

器部門 ヤマハホール

トランペット独奏:末吉菜美

●第41回フルートデビューリサイ
タル2014

7月5日(土) 東京オペラシティ・リ
サイタルホール

フルート独奏:滴草幸実(小リサイタル
の形で演奏します。)

●平成26年度 音楽学科夏期受験
準備講習会

平成26年7月26日(土)～29日(火)に
開催いたします。校友会員の皆様のお
知り合いを、ぜひご紹介ください。

●平成25年度で退職なさった先生は
次の通りです。

長い間、ありがとうございました。
森朝子先生、勝俣敬二先生、織原秀治
郎先生、新谷要一先生

●今年度より次の先生が新たに講座
を担当しております。

山下晃弘先生(音楽療法特殊研究
Ⅲ)、中橋愛生先生(音楽特殊研究
Ⅰ)、篠田昌伸先生(和声Ⅲ)、丸山匡
子先生(室内楽)、茂木一衛先生(音楽
史Ⅵ)、原澤浩先生(ゼミナール)、大
川友章先生(情報音楽研究Ⅳ)、守山
光三先生(弦・管打楽器・ホルン)

文芸ブロック



■文芸学科学生と卒業生、各地の文
学賞を続々受賞!

文芸学科4年澤田石円さんが小説「ま
ばたき」で第25回舟橋聖一顕彰青年
文学賞佳作を受賞しました。

文芸学科4年藤原侑貴さんが小説「通
りゃんせ」で第30回織田作之助青春
賞を受賞しました。また、平成24年度
卒の岡田美津穂さんが小説「橋の下

と僕のナイフ」で第30回織田作之助
青春賞佳作を受賞しました。

文芸学科4年川島英理沙さんがエッ
セイ「隠しごと」で文芸思潮第9回
エッセイ賞の奨励賞を受賞しまし
た。

演劇ブロック



◇平成25年度「川野希典賞」受賞者
決定!

演劇学科の実習発表及び卒業制作
公演における年間最優秀作品及び人
物に授与される「川野希典賞」に、平
成25年度卒業制作(日舞)『生きる』が
選ばれ、同卒業制作登録者、次の11名
に、平成25年度演劇学科学位記授与

式(卒業式)において賞が授与されま
した。
みなさんおめでとございます。

○受賞者

- ・中田花子(創舞・出演)
- ・池杏子(創舞・出演)
- ・古越千晴(創舞・出演)
- ・林杏(創舞・出演)
- ・小野ひとみ(創舞・出演)
- ・西尾彩(創舞・出演)
- ・塚本彩織(文芸)
- ・猿田未来(舞台監督)
- ・土屋玲奈(照明)

- ・森本絢子(照明)
- ・黒岩夏美(照明)

◇前期実習発表スケジュール

平成26年度も前期江古田校舎北棟
中ホールにおきまして、さまざまな
実習発表及び卒業制作中間審査を予
定しております。校友の皆様方のご
来場を心よりお待ちしております。
尚、所沢校舎での舞台発表は全て後
期(9月以降)となっております。ま
た、演劇学科実習発表及び卒業制作
に関しましては、全公演インター
ネットからの事前予約が必要です。

詳しい予約スケジュール及び予約方法に関しましては、
演劇学科ホームページ
<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/>
でご確認ください。

【前期発表スケジュール】

※タイトル及び詳しい内容は演劇学科ホームページでご確認ください。

○総合実習ⅡA(演劇)

・6月12日(木)～14日(土)
・演出:加藤直
・江古田校舎・中ホール

○総合実習ⅡB(洋舞)

・創舞指導:堀登

・7月4日(金)・5日(土)
・江古田校舎・中ホール

○総合実習Ⅳ(演劇)

・演出指導:高橋いさを
・7月11日(金)・12日(土)
・江古田校舎・小ホール

○卒業制作中間審査(日舞)

・7月19日(土)
・創舞指導:花柳昌太郎
・江古田校舎・中ホール

○舞台総合実習ⅤD(洋舞)

・8月1日(金)・2日(土)
・創舞指導:范旅
・江古田校舎・小ホール

◇卒業生が文化庁芸術祭賞新人賞を受賞!

平成10年度卒業生(日舞コース)、武田誉一(芸名:藤間清継)さんが、平成25年度(第68回)文化庁芸術祭において、芸術祭賞新人賞を受賞されました。おめでとうございます。

◇卒業生が吟舞NHK杯を受賞!

平成23年度卒業生(日舞コース)、横室真弥(芸名:見城真弥)さんが、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会主催、平成25年度全国吟剣詩舞コンクール全国大会、詩舞の部において、公益会長賞NHK杯を受賞されました。おめでとうございます。

放送ブロック



■「ギャラクシー賞受賞『報道活動』を見て、制作者と語る会」のご報告

昨年11月9日に江古田校舎で第6回「ギャラクシー賞受賞『報道活動』を見て、制作者と語る会」(主催/NPO放送批評懇談会ギャラクシー賞報道活動部門委員会後援/日本大学芸術学部放送学科)が開催されました。第50回ギャラクシー賞の報道活動部門で大賞、優秀賞を受賞した制作者を迎え、受賞作の視聴後、制作者からお話をうかがいました。

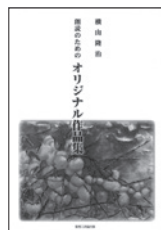
会は4時間半と長丁場になりましたが、最後の全体討論では制作者の活発な意見が交わされ、充実したものになりました。

■朗読のためのオリジナル作品集

放送学科の専任教員として長年に

わたり放送台本や脚本の指導をいただいた横山隆治先生が、このたび新理工評論出版より「朗読のためのオリジナル作品集」を上梓されました。

本書には、朗読のために書かれた十一篇のオリジナル作品が収められ、巻末には朗読作品を書くにあたっての思いや昨今の朗読への提言が綴られています。是非ご覧になってみてください。



■第10回「ACジャパンCM学生賞」受賞報告

広告制作を通して、公共広告への理解を深め、社会に主体的に関わる「公」の意識を育むことを目的に開催されている第10回「ACジャパンCM学生賞」で三橋飛鳥さん(4年)が一員のグループが制作した作品「自転車ドミノ」が部門賞の表現技術賞を受賞しました。また、弓削田淳史さん

(H25年度卒)が一員のグループが制作した作品「日本語プス」が優秀賞を受賞しました。

これらの作品は、放送学科の兼高聖雄教授がマネジメントを務める芸術総合講座「広告企画実務」での指導を経て、制作されました。

■日藝の卒展で卒業制作の発表・展示を行いました

今年から始まった芸術学部の合同卒業制作展「日藝の卒展」の期間中、3月21、22日の2日間、放送学科の卒業制作(映像作品、音響作品、朗読発表)を江古田校舎の教室やスタジオで上映、発表しました。また同期間中に、脚本の作品展示も併せて行いました。

卒業を間近に控えた4年生が、公に作品を発表する最初で最後の機会ということもあり、会場には多くの人が訪れました。

■放送学科新任者のお知らせ

今年度より放送学科の専任教員と

して安部裕先生をお迎えしました。安部先生は、放送学科を平成2年度に卒業後、共同テレビジョンに入社され、カメラマン、技術プロデューサー

として長くご活躍されてきました。「映像技術」を中心に授業を担当します。

そして、技術センターの任期制職

員として安住仁吾さんをお迎えしました。安住さんは、PRG株式会社などで主に照明の仕事に携わられていました。

デザインブロック



○文字デザインコンテストにてデザイン学科の学生が多数入賞

日本フォントコンテンツ文化協会主催の文字デザイン第二回フォントコンテストにおいてデザイン学科の学生が多数受賞しました。全国から一般、高校生、大学生と幅広い年代に渡る80点ほどの作品の中から8名受賞する快挙となりました。

最優秀賞：外池えりか
優秀賞：山下彩稀、大島 都、出水友美子

入賞：村田恵理、東原諄実、西野夢実、熊切笑奈(すべて2年生)

○「若者によるエコ・メッセージ」ポスターデザインコンテストにて優秀賞受賞

第10回「若者によるエコ・メッセージ」ポスターデザインコンテストにおいて、CDコース3年の森樹里さんが優秀賞を受賞しました。

○日本建築学会設計協議にてタジマ奨励賞を受賞

日本建築学会主催による日本建築学会設計協議にて、ADコース4年の関里佳人さん、坪井文武さん、李翠テイさんが「タジマ奨励賞」受賞しました。

○卒業生が「MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013」にて入賞

卒業生の渡邊真弓さん(H24年度CDコース卒業)の卒業制作作品「ヴェサリウスダンス」が同コンペにて日比野克彦賞を受賞しました。受賞作品展は、東京国際フォーラムガラス棟B1Fロビーギャラリーにて2013年11月28日から12月1日まで開催されました。

○インターセクション・プロジェクト(リーダー：向井准教授)の展覧会を開催

平成25年度文化庁事業「大学を活用した文化芸術推進事業」として実施された日本大学芸術学部の「インターセクション・プロジェクト」の展覧会「平行する交差展 Performative Architecture」が2月22日と23日に本学古田校舎の中ホールにて開催されました。同プロジェクトは普段それぞれ異なる領域において個別に活動している芸術学部の教員が学外の専門家とも連携し、創作上の方法論を学び合いながら展開するコラボレーション・アート・プロジェクトです。デザイン学科の向井知子准教授がプロジェクトリーダーを務め、芸術学部の7名の教員と学外招聘パフォーマーが参加。空間、映像、身体、音響、テキストなど多面的なイメージが対立し交錯する、劇場を使った巨大な回遊式インスタレーション作品が公開されました。



○卒業制作展と第3回卒業生・学生
交流会を開催

2013年度日本大学芸術学部デザイン
学科卒業制作選抜展 日本大学大学

院造形芸術専攻修了展(デザイン)が
2014年2月15日から2月26日まで、大
ホール棟、ギャラリー棟で開催され
ました。また2月15日には卒業生との

交流会も行われ、多くの学生がプロ
として活躍している卒業生の話しに
熱心に耳を傾けていました。

あなたの作品おまちします！

第39回土日会展：絵画作品を公募しています

会期 2014(H26)年12月10日(水)～12月23日(火)

会場 国立新美術館1階展示室1A室

搬入 11月28日(金) 10:00～

問合せ 土日会事務局 0422-48-1007(T&F)

遠慮なくお問合せください 事務局 三浦裕之 ※日大芸術学部美術学科卒業生
が多数出品しています

お詫びと訂正

会報91号(2013秋号)において
日程に間違いがあり、以下の通り
訂正してお詫び致します。

P.14 山形江古田会総会
6月16日(日)→6月15日(土)

総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアル
から立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

(株)スピーチ・バルーン▶1985年、スタジオ・
マイの出版部門として発足。絵本、コミック、アニ
メほか、企画本の制作、出版プロデュースを主
とし、各種イベントの企画・構成・プロデュース
なども行っている。

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

<http://www.my1973.com>

design:スタジオ・マイ

編 集 後 記

今年度の日藝賞のひとり・松崎
しげるさんは、文芸学科出身で
歌手をされています。最近では
ゴールデンボンバーの歌広場淳
さんも文芸学科出身で、なぜか
文芸は二人もNHK紅白歌合戦
出場歌手を輩出してしまいました。
このジャンルをまたいだ活
躍の仕方が、日芸っぽいかなと
も思います。

(青木)

8つのアート1つのハート

N O U
Nihon University College of Art
Art

日本大学芸術学部校友会会報・第92号

2014年春号●平成26年5月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 綾部東洋子

●広報担当 鈴木孝史 今泉久 青木敬士
小林直弥 金龍郎 木村政司

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北嶋 留美子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
成田ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙

平成25年度写真学科卒業制作
黄 吟茜
『Letters to』

8つのアート1つのハート

日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学院 芸術学 研究科 ◆

◇博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻

◇博士後期課程／芸術専攻



写真



映画



美術



音楽



文芸



演劇



放送



デザイン

熱気・やる気・元気

江古田校舎

OPENCAMPUS

6.29 予約不要・入退場自由
[日] 10:00~16:00

学部全体説明会(入試説明含む)/模擬授業/
ワークショップ/個別進学相談コーナー 他

所沢校舎

進学フェア

5.17 予約不要・入退場自由
[土] 10:00~16:00

個別進学相談コーナー/VTR上映コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします

江古田校舎

入試相談会

11.2 [日] .3 [月/祝]

10:00~16:00 予約不要・入退場自由

個別進学相談コーナー/VTR上映コーナー 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
11月1~3日に芸術学部祭を実施していますので、学生主催のイベントやキャンパスの雰囲気もご覧いただけます



<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘 2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南 4-21 TEL.04-2993-2212